

奈良県立医科大学眼科ニューズレター Vol. 13

ご挨拶

教授 緒方奈保子

皆様いかがお過ごしでしょうか？

あっという間に夏になってしまいました。地球温暖化が言われ出したのはずいぶん前のことになりますが、毎年暑くなるというのが実感です。エアコン無しではとても毎日を過ごせません。室内はなんとかエアコンで過ごせても、日中屋外ではアスファルトからの照り返しと熱風を防ぐものがありません。いつからこんなに夏は暑くなったのでしょうか？



今年は女性医師2名の新入局がありました。眼科では女性医師の割合が多くなってきていると言われていますが、4年間男性のみの入局が続いていたので久しぶりの新人女性眼科専攻医です。伸び伸びと研修を行って食欲になんでも吸収して欲しいと思います。そして1年遅れの新しい専門医制度も始まりそうです。

今年5月、ARVO (The Association for Research in Vision and Ophthalmology) に参加してきました。今年はボルチモアで開催されました。どうもボルチモアは治安が良くないとの評判で日本人には（日本人だけではないかもしれませんが、、、）人気が無かったようで、ARVOの演題締め切り期限が延長されたのを初めてみました。

ボルチモアには有名な Johns Hopkins Hospital、The Wilmer Ophthalmological Institute があります。私の後輩は何人も Wilmer 眼研究所に留学していたのですが、私自身は訪れたことがなく、今回初めて訪れる機会を得ました。ボルチモアには大した産業はなくて唯一の産業がジョンズ・ホプキンス病院という話です。世界で最も優れた病院の1つとしてよく知られていますが、実際に病院正面に立つと歴史のあるまた歴史を感じさせる建物でした。ウィキペディアによるとジョンズ・ホプキンス病院はボルチモア出身の銀行家ジョンズ・ホプキンスの遺産で1889年に設立されたそうです。患者のケア（病院）と教育・研究（大学）の両立を追求しアメリカ医学の変革の基礎を築いたとあります。「患者のための病院」という精神は旧来の意識を大きく変えるものだったと聞きました。また、ジョンズ・ホプキンス大学は初めて女性を受け入れた医学校でもあるそうです。Wilmer 眼研究所は眼科医のウィリアム・ホランド・ウィルマーによって1925年に開設されたそうです。さらに最初の内科部長となったオスラーは研修医制度を始めた人物と考えられているそうです。オスラーは、医学部の授業がほぼ講義のみだった時代にあって、医学生にコースの初期から実際の患者を診察させるアイデアを導入したそうです。

地球環境が変わり、世代が変わって、専門医制度が変わっても「患者のための病院」で、そして「患者のための医療」を行いたいものです。

講演会

第13回奈良県眼科万葉フォーラム

平成29年5月20日に橿原ロイヤルホテルにて第13回奈良県眼科万葉フォーラムが開催されました。今回は特別講演として福島アイクリニック院長の桑山泰明先生にお越し頂き、「緑内障：診断と治療のupdate」というタイトルでご講演頂きました。脳脊髄圧が低いことが緑内障発症メカニズムに関与するといった話や緑内障診療のトピックスである前視野緑内障やMIGS(minimum invasive glaucoma surgery)などについてご講演頂きました。緑内障診療の最先端についてご講演頂き、あっという間の1時間でした。



第2回中・南和地域 病診連携の会

平成29年6月3日に橿原ロイヤルホテルにて第2回中・南和地域病診連携の会が開催されました。今回は特別講演として東京医科大学八王子医療センター眼科教授の志村雅彦先生にお越し頂き、「どうする？これからのRVO治療」というタイトルでご講演頂きました。最初にRVOの病態である網膜静脈灌流のうっ血についてお話し頂き、さらに近年RVO治療の中心である抗VEGF薬の硝子体注射のタイミングや、全身的な合併症を予防するための注意点など、臨床に直結した内容のご講演をして頂き大変勉強になりました。



第2回NORSの会

平成29年6月24日に大阪マリオット都ホテルにて第2回NORSの会が開催されました。NORSの会は研修医の先生や医学部の学生に眼科の素晴らしさを知って頂き、将来眼科医を目指して頂くための会です。今回は特別講演として東北大学眼科教授の中澤徹先生にお越し頂き、「社会に役立ついい眼科」というタイトルでご講演頂きました。とても素晴らしい内容で、私たち眼科医も眼科の社会貢献度の高さを再認識させて頂きました。また来年も今年と同様に有意義な会を開催し、研修医の先生が眼科に興味を持ってもらえるような会を続けていきたいです。



人事

今年もめでたく2名の先生が新入医局員として眼科に入局しましたので、自己紹介をして頂きます。

また大熊先生が大学の外来をお手伝いして頂けることになり、水澤先生が市立奈良病院から戻ってこられましたので一言頂きました。

岡部 直子 (平成 29 年入局)

今年4月より奈良医大眼科学教室に入局させて頂きました岡部直子と申します。

出身は神戸で六甲山系の麓で育ちました。登山、旅行、料理等が趣味で、休日には関西の山を中心に登山やキャンプに出かけています。眼科に入局し2ヶ月程経ちますが、毎日、緒方教授をはじめ諸先輩方からは大変温かく丁寧なご指導をいただいております。日々失敗や反省ばかりではありますが同時に学ぶことも大変多く、ごく僅かながらではありますが、眼科の知識が増えていく毎日が今はとても楽しいです。

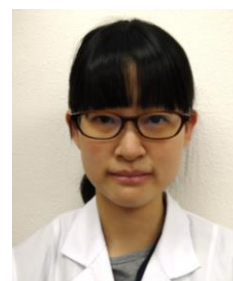
まだまだ未熟者で、これからも多々ご迷惑をおかけしてしまうかとは思いますが、今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。



伴 裕美子 (平成 29 年入局)

平成29年4月より奈良医大 眼科学教室に入局させて頂きました、伴裕美子と申します。

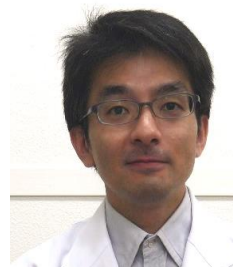
眼科医として働き始めて間もないですが、眼科の奥深さに日々感動し、同時に責任も感じております。まだまだ未熟者ですのでご迷惑をおかけすることも多々あると存じますが、日々精進して参りますので、今後ともご指導ご鞭撻の程お願い申し上げます。



大熊 康弘 (平成 14 年入局)

平成29年4月より非常勤で外来を担当させて頂いております大熊康弘と申します。

私は平成14年に東京慈恵会医科大学を卒業し、卒業後同大学の眼科学講座に入局し以後平成29年3月まで医療をしてまいりました。慈恵会医大在籍時は主に小児眼科・斜視そして黄斑外来に従事しておりました。今回約20年ぶりに奈良に帰って眼科診療を始めるにあたって緒方教授にお声掛け頂き、奈良医大で勉強させていただく機会を頂きました。できることの限られた人間ではございますが、今まで経験させていただいたことを地元奈良の医療に還元できるよう努力してまいりたいと思っておりますので何卒宜しくお願い致します。



水澤 裕太郎（平成 26 年入局）

三伏大暑の候、みなさまいかがお過ごしでしょうか。

今年1月、出向先の市立奈良病院より戻ってまいりました水澤裕太郎と申します。

このたび、私はめでたく31歳となりました。1回1回の誕生日への喜びは以前に比べ小さくなりましたが、やはり嬉しいものですね。

昨年私が虫垂炎のため、生まれて初めてオペを受けるという一大イベントがあったことは、みなさんご存知だとは思いますが、受ける身になって初めて分かることは多いです。何というか、すっげー痛いんです。腹腔鏡で穴1つ開けただけなのに、すっげー痛いんです。みなさんも病気にならないよう、手洗いうがいはいはしっかりしましょうね。



専門医合格のお知らせ

大学で助教をしている益田先生がみごと専門医試験に合格しましたので一言頂きました。

益田 尚典（平成 25 年入局）

平成 29 年 6 月 9 日、10 日に東京のフォーラム 8 で行われた第 29 回眼科専門医試験を受験しました。平成 21 年に医師国家試験を受けてから久しぶりの試験でかなり緊張しましたが、無事に合格することができました。今年も一般問題はなかなか難しく、手ごたえのある試験でした。試験のためにかかなりの時間と労力を費やしたので、合格できて本当によかったと思います。来年専門医を受ける先生方の合格を、心から望んでやみません。がんばってください。



学位取得の報告

宮田 季美恵（平成22年入局）

このたび主論文である Higher Cognitive Function in Elderly Individuals with Previous Cataract Surgery: Cross-Sectional Association Independent of Visual Acuity in the HEIJO-KYO Cohort が Rejuvenation Research 誌〔2016 Jun;19(3):239-43〕に掲載され、学位を取得させていただくことができました。研究立案、論文掲載、学位取得に際し、ご指導・ご鞭撻を賜りました緒方教授に深く感謝申し上げます。また、共同研究に誘っていただき、右も左もわからないひよっこの私に疫学研究をご教授いただきました疫学・予防医学講座の佐伯教授、大林講師には心より感謝申し上げます。

もともと臨床にしか興味がなかった私、研究など全く興味もなく、大学院進学のお話も一度はお断りいたしました。緒方教授に「大学院で研究することで、臨床の見方、考え方も変わってくる。何かを研究するという経験は必ず臨床でも生かされる。」とのお言葉をいただき、社会人大学院生として入学いたしました。

緒方教授よりいただきました研究課題は地域健康医学講座（現疫学・予防医学講座）車谷前教授との共同研究「藤原京スタディ」でした。「高齢者の元気の秘訣をさぐる」をテーマに、健康な高齢者がどのような暴露因子によって疾患を発症、死亡の原因になるかを研究する前向きコホート研究です。緒方教授ご立案の研究指針の元、データを取るためにいろいろな地域を回っていました。その時に大林講師に「サーカディアンリズムについての研究をしている。眼から入る光の情報が体内時計にいかに関与しているか、そして全身疾患、死亡に関与しているかを研究している。ぜひ眼科学教室と共同研究がしたい。」とお声をかけていただきました。緒方教授にやってみたくてお願いすると「やってみなさい」とのお言葉をいただき、私自身には研究費も全くないにもかかわらず、自由に研究をさせていただきました。“自由に研究をさせていただけた”ことに本当に感謝しております。佐伯教授、大林講師のご指導の元、何とかデータを取得し、緒方教授のご指導の元に論文作成、学位取得ができました。データ取得のためにいろいろな地域を回っている間、大学の先生方には業務を代行していただき多大なるご迷惑をおかけいたしました。また同窓会の先生方からのご支援の元に遂行できた研究だと痛感しております。支えてくださった諸先生方に心より御礼申し上げます。

自由に研究をさせていただける環境、それは他科にも、他大学にもない、貴重な環境だと思います。そのような環境を作ってくださっている緒方教授に感謝し、同窓会の先生方のご支援に感謝し、後輩の先生方にも興味のある分野を邁進していただきたいと思っております。

学位取得の報告

峯 正志（平成14年入局）

このたび、Association of Visual Acuity and Cognitive Impairment in Older Individuals: Fujiwara-kyo Eye Study [BioResearch Open Access. 2016 Aug 1;5(1):228-34]にて学位を取得させていただきました。まず、藤原京スタディの参加者、関係者、実施した検査員の方々に厚く御礼申し上げます。

15年前に入局したときには学位のことなど全く考えておらず、大学院も行かなかったのに、こんなことになるとは不思議なものです。思えば3年前、緒方先生より「若い先生が大変そうだから藤原京スタディを手伝ってあげて」と言われたのが始まりで、その後は

「日眼で発表が2つあるから片方やってくれない？しゃべるだけでいいから」

「先生の発表すごくいいから論文にしましょう、日本語でいいから書いてきて」

「すごくよく書けてるじゃない、英文にしましょう、翻訳を頼めるところがあるから」

「いいね、この内容ならまずOphthalmologyに投稿しましょう」

と、計算されたかのようなルールに乗ってしまいました。その後は reject が続いてなかなか掲載されず、時間がかかりましたがようやく、BioResearch Open Access に accept されました。その間、もともと乏しいやる気が尽きそうなときもありましたが、常にポジティブな緒方先生の叱咤激励（激励8割で）のもと、何とか学位取得に至りました。2年連続で緒方先生への年賀状の文面が「今年こそは論文を何とか…」という内容だったのは、今もまだ苦い思い出です。

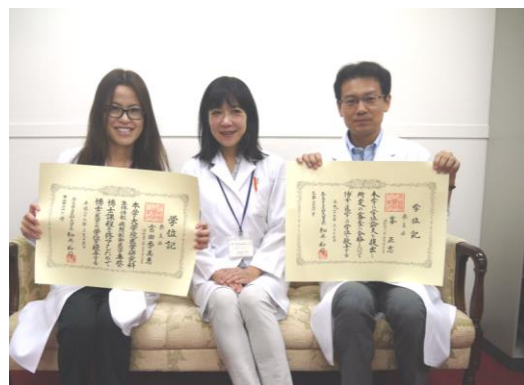
論文作成にあたり、忙しい中、統計解析を行っていただいた宮田先生、西先生ありがとうございました。また、reject された論文の修正をしていただいて、accept に漕ぎ着けていただいた、山形大学の川崎先生、山下先生には心より感謝しております。

今回、学位を取得する段になって、以前に原先生の薦めで受けていた英語の試験（受けたことも忘れていましたが…）が役に立ち、名和先生、湯川先生、福原先生に指導していただいた論文を副論文として提出することが出来ました。厚く御礼申し上げます。

これからの臨床において、学位自体が特に役立つ事は無いように思いますが、その過程で様々な経験が出来、自分の医師としての役割を振り返ることが出来たのは良かったと思います。また両親が思いの外、喜んでいたので、それも良かったです。このような機会を与えていただいた緒方先生には心より感謝しております。

最後に「あなたの論文は、一体いつになったら終わるんや」と言いながら時間を作ってくれた家族に、ありがとうございました。仕事中说って、家でパソコンに向かっている時間が多かったので、子供たちは、父親の仕事がそういう仕事と思っているようでした（笑）。

これからも皆さんのお役に立てるよう、頑張っていきます。今後ともよろしく願いいたします。



ごあいさつ

櫻井 寿也（昭和 63 年入局）

本年四月付けで多根記念眼科病院、院長職を拝命し着任いたしました。多根記念眼科病院は 1988 年（昭和 63 年）に設立された眼科専門病院です。創設以来 30 年あまり実績を重ね、眼科分野における急性期病院として、また地域における中核病院としての役割を担ってきました。

当院は眼科各分野で高い専門性を発揮し、年間 6000 件を上回る全国でもトップクラスの手術実績を誇っています。私の専門としている網膜硝子体では年間 1400 件を超える手術件数となっており、その数は現在全国一位です。臨床経験の豊富さもさることながら、最新の設備や治療法をいち早く導入することにより、より高度で安全な医療を患者様に提供できるよう努めてまいりました。

さらに昨今、当院では地域医療連携にも力を入れており、事前予約や逆紹介を積極的に行い、紹介元眼科や病院と円滑な連携を図ることでスムーズに受診していただけるようになっています。

しかしながら、環境や組織を作り上げる決め手は人の力であり、医療の現場も例外ではありません。個々のスタッフの力や特徴を把握し、才能を十分に発揮できるよう環境を整え、医師・看護師・コメディカルの専門スタッフによるレベルの高いチーム医療を推進していきたいと考えております。

さて、私は昭和 63 年に本学を卒業し、西信元嗣教授がご教鞭を執られる奈良医大眼科教室へ入局させていただきました。当時は眼科医局拡大と重なり、関連病院への医師派遣のため大学の人は少ない時期でした。医局員が少ないことで不利に働くことも多いのですが、多忙ながらいろんな症例を経験できたことに今では感謝しています。眼科医人生の中である一定期間眼科漬けの日々を送ることは、その後の眼科医としてのキャリアに有用なことであり、若い先生方にも勇往邁進して欲しいと思います。



身にあまる重積ではございますが 新しい環境の下 眼科専門病院として幅広く取り組み、これまで以上に一意専心 医師の教育及び医療の発展のために尽くす所存です。どうか今後も患者様のご紹介ならびに、医師やスタッフの人材相互交流実現を目指しておりますのでご支援何卒よろしくお願いいたします。

奈良県立医大 眼科外来診察表

		奈良県立医科大学 眼科外来診察表				
		月	火	水	木	金
1診	午前	丸岡	上田	手術日	緒方	手術日
	午後	角膜外来	網膜硝子体外来	専門外来	網膜硝子体外来	専門外来
2診	午前	西	岡本	手術日	吉川	手術日
	午後	小児・神経眼科外来	緑内障外来	専門外来	緑内障外来	専門外来
3診	午前	西川	大熊	手術日	益田	手術日
	午後			専門外来	眼循環・黄斑外来	専門外来
4診	午前	山下	宮田	手術日	峯（第1, 3, 5）	手術日
	午後		黄斑外来	専門外来	大萩（第2, 4）	専門外来
5診	午前	平井	水澤	手術日	小林（第1, 3, 5）	手術日
	午後			専門外来	増田（第2, 4）	専門外来
6診	午前		竹内			
	午後					

- ・専門外来は完全予約制です。
- ・初診の場合はまず、月・火・木の外来を受診するようお願い致します。
- ・地域連携の予約は月・火・木が5名、水・金は3名可能となっております。

編集後記

平素は奈良県立医科大学眼科学教室の運営にお力添え頂き、誠に有難うございます。ニュースレターは、今回で13回目の発行となりました。ニュースレターでは引き続き、同窓会の諸先生方からのご投稿をお待ちしております。先生が日頃感じておられることや、大学への要望など、どのような内容でも結構です。何なりとご投稿頂ければ幸いです。ご投稿、ご質問などは下記メールアドレスまでよろしくお願い致します。

smaruoka@narmed-u.ac.jp 奈良県立医科大学 眼科 丸岡真治(平成10年入局)